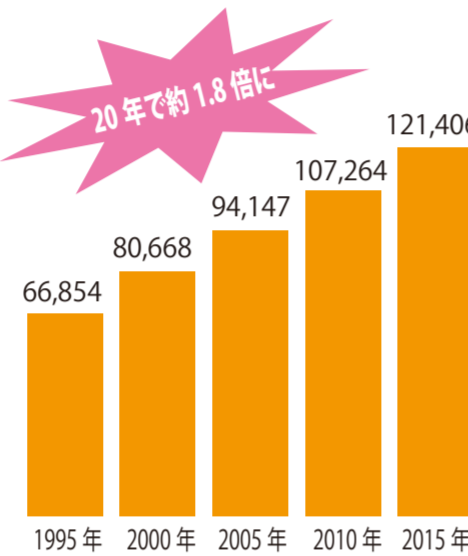




和歌山市の高齢化の現状…一人暮らし高齢者が急増

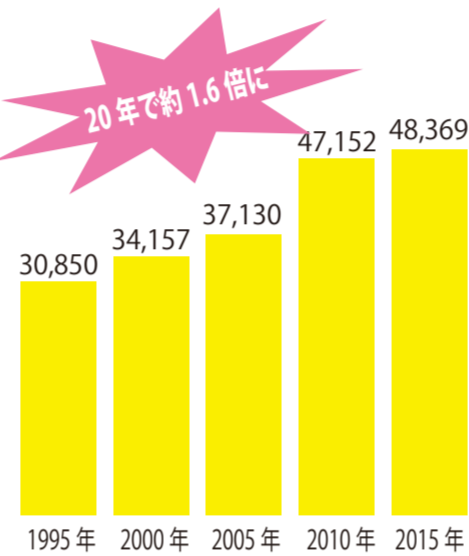
第159号で、2015年（平成27年）国勢調査のデータをもとに、ここ最近の和歌山市の人口動態を探りました。人口の減少傾向は一部の年齢層で鈍化しているものの高齢化は進行しているということをご紹介します。今回は高齢者の状況をもう少し掘り下げてみました。そうしたところ、一人暮らしの高齢者が急増していることがうかがえました。

65歳以上の高齢者数の推移



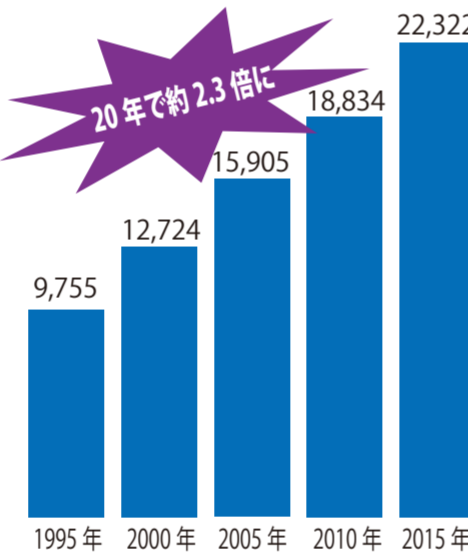
【出典】和歌山市企画課ウェブサイトより、国勢調査の結果を元にした分析

全年齢の単身世帯数の推移



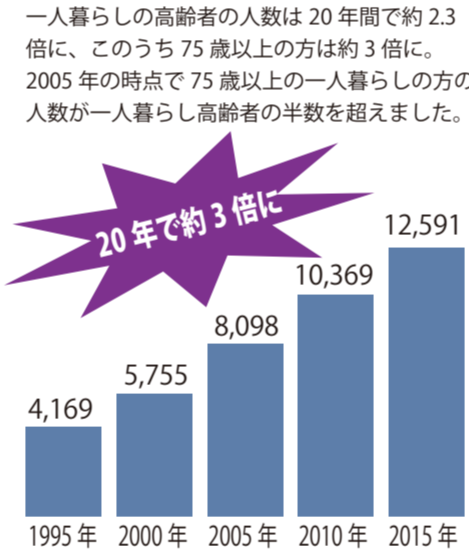
【出典】和歌山市企画課ウェブサイトより、国勢調査の結果を元にした分析

65歳以上の一人暮らしの方の人数の推移



【出典】和歌山市企画課ウェブサイトより、国勢調査の結果を元にした分析

75歳以上の一人暮らしの方の人数の推移



【出典】和歌山市企画課ウェブサイトより、国勢調査の結果を元にした分析

高齢者の増加状況
和歌山市企画課が国勢調査の結果をもとに公開しているデータをみると、65歳以上の方の人口の推移を調べてみました。まず左図は1995年（平成7年）から5年ごとの65歳以上の人口の推移です。95年は6万人台だった65歳以上人口は年々増え、20年間で約1.8倍の約12万人にまで増え、高齢化率は29.1%となっています。市民10人に3人は65歳以上ということになります。

すと、和歌山市内の全世帯の単身世帯は95年の約3万世帯から、20年間で約1.6倍の約4.8万世帯に増加しています。しかしこれを世代で区切ると驚きの実態がみえてきます。65歳以上の単身世帯は20年間で約2.3倍に、そして75歳以上の単身世帯はなんと約3倍と急増。

つまり、高齢化率の上昇をはるかに上回るペースで高齢者の単身世帯が増加しているのです。95年には単身世帯に占める65歳以上の単身世帯の割合は約3割でしたが、15年には半数弱を占めるまでに、また4世帯に1世帯は75歳以上の高齢者による単身世帯となつてい

る結果となりました。さらに、65歳以上の単身世帯の半数以上が75歳以上のいわゆる「後期高齢者」による単身世帯という集計結果も出ています。要介護認定を受けていることになり、要支援・要介護認定を受ける方のほとんどが65歳以上です。大まかに計算すると65歳以上の人口のうち6人に1人が認定を受けていることとなります。

和歌山市をはじめ複数の自治体では、地域で孤立する方を一人でも減らすとともに、健康維持と生きがいづくりにもつながる「地域の居場所」づくりを進めています。平時のつながりがづくりは緊急時にも役に立つといわれています。一人暮らしの方であっても安心して暮らせる地域づくりがいつそう求められることになりそうです。（志場久起）

みんなでつくる情報板 わかやまイベントボード

- ポピュラーカーニバル
和歌山の学生や社会人によるバンドが、ロックや弾き語りを披露します。フリーマーケットも同時開催。
日時 5月3日（水・祝） 10:00～
場所 片男波公園野外ステージ
入場料 無料
問い合わせ サウンドビーブル わかやま (073-444-1074)
備考 雨天時は翌日に顺延
- 図書館バックヤード見学～親子の部～
いつも入ることができない図書館のバックヤードに潜入して見学ができます。
日時 5月7日（日）10:30～、14:00～の2回（各60分）
場所 和歌山県立図書館
内容 ①県立図書館についてのお話、②地下書庫や古文書などの見学、③図書館司書の仕事を体験
参加費 無料
対象 和歌山県内在住の小学生と保護者
定員 各10組（申し込み必要・先着順）
締め切り 5月4日
問い合わせ・申し込み 和歌山県立図書館サービス課 (073-436-9500・FAX 073-436-9511)
- キャベツ畑でモンシロチョウやアオムシを探そう
子どもたちによるチョウ探しイベントです。
日時 5月7日（日） 9:30～11:30
場所 和歌山市四季の郷公園ネイチャーセンター
参加費 1人100円
対象 3～5歳児
定員 60名（申し込み必要）
持ち物 ビニール袋と作業用の手袋を持参
問い合わせ・申込み 四季の郷公園ネイチャーセンター (073-478-3707)
- ゴールデウィーク無料開放
大型連休、体力づくりにいかがですか。
日時 4月30日（日） 10:00～17:00
場所 和歌山市民温水プール
入場料 無料
持ち物 水着とスイミングキャップは持参ください。
問い合わせ 市民温水プール (073-455-8022)
備考 利用は1人につき2時間までとなります。

SDGs 国連・持続可能な開発目標を知ろう ⑧

6 安全な水とトイレを世界中に
【目標6 すべての人々に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する】
目標6は生活に欠かせない「水」について取り上げられています。

2030年までの目標として、①すべての人が安全かつ安価な飲料水を確保できること、②すべての人が適切な下水・衛生施設を利用できるようにするとともに野外での排泄をなくすこと、③汚染の減少や有害物質の放出の抑制等により世界的規模で水質を海戦させること、④水利用の効率を改善させ水不足に対処するとともに、水不足に悩む人を大幅に減らすこと、⑤国境を越えた水資源の管理をおこなうこと、2020年までの目標として⑥水に関する生態系の保護・回復をおこなうこと、が掲げられています。

また行動目標として、⑦開発途上国における様々な水資源の開発・再利用・管理、衛生分野等の活動への支援を拡大すること、⑧水と衛生の管理に関する地域コミュニティの参加を支援する、が挙げられています

SDGsでは、社会的・経済的発展への鍵は、地球の天然資源の持続可能な管理にある、としています。この一環として、水不足や水質汚濁だけではなく、砂漠化や干ばつへの対策も強化することと定めています。

水不足や劣悪な水質、衛生施設の不備は、食料の安定的な確保だけではなく、就業や教育の機会に悪影響を及ぼします。水質と職業・教育とは一見直結はしないようにみえますが、貧困地域では水を運ぶことが女性や子どもの重要な労働として位置づけられていることも多く、結果として就業や教育の機会を奪うことにつながると指摘されています。したがって、水問題の解決は経済や教育環境の改善にもつながると期待されています。

WHO（世界保健機関）とユニセフの推定による

と「安全な飲料水にアクセスできない」人は年々減少しているものの、2010年現在でまだ世界の総人口の約1割、約8億人います。

なお「安全な飲料水へのアクセス」とは「1km以内一人1日20リットルの水を確保できる場所がある」ということが定義されていることから、飲料水を確保するために徒歩で水を運んでいる人も少なくないものと思われます。

また、25億人がトイレを利用できないとみられており、これは水質汚濁にもつながっています。有害物質を含む河川で水を手取るようなケースもまだまだみられています。

このままの状態が進むと2050年までに世界の人口の4人に1人が水不足を抱える国で暮らすことになると警告しています。日本国内でも開発途上国に井戸を贈る活動をおこなっているNGOが複数あります。

少しでも多くの人々が安心できる水環境を確保できるように、わたしたちにもできることはありそうです。